

## 日本経営学会第91回大会論題趣旨

### 1. 統一論題「公共性と効率性のマネジメント—これからの経営学—」

- サブテーマ① 医療・福祉組織のマネジメント
- サブテーマ② ソーシャルビジネスのマネジメント
- サブテーマ③ 公共性と効率性のマネジメントからみた CSR

### 2. 統一論題設定の趣旨

19世紀末から20世紀初頭の経営学の議論の対象は、主に企業であり、それは、社会における有用な経済的道具（あるいは主体、システム）として見なされ、人類における重要な創造（発明）物として今日に至っている。昨今、その存在における公共性が強く問われるようになってきている。例えば、米国における経営学の発展をみても、いきなり企業の公共性が議論の俎上にあがっていたわけではない。しかし、その百年超の歴史を経て、社会からとくにその存在意義や CSR（企業の社会的責任）を問われ続けるようになって、企業活動における公共性の議論は一般化しているように思われる。

また、企業は、その誕生期より営利という概念に敏感な存在であった。歴史的にそれを推し進めたのは近代における経済経営社会、あるいは企業社会の登場と拡大発展である。そこで、企業が営利組織として重要視したのは、効率性である。しかし、今一度振り返ってみると、この公共性と効率性という概念について、経営学はどのように認識してきたのであろうか。公共性と効率性とのバランスの重要性を指摘しながらも、結果的に両者はトレード・オフの関係を越えられない、という対概念的な議論に落ち着いてきたのではないだろうか。さらに、今日、論理・実践的にも経営学に由来するマネジメント概念が、社会に普及・拡大したことは言をはさまないであろう。

昨今、多様な社会的ニーズに対応することで社会的価値を創造し、その結果、経済的価値が創造されるという新たな動きが多様な形で現れ始めている。それに対応していくためにも、社会的存在意義と社会的責任論を踏まえ、営利組織および非営利組織を問わず、企業を含む多様な組織に対して、公共性と効率性のマネジメントに焦点を当てて議論すべきではないだろうか。近年、営利組織はもとより、非営利組織を取り巻く社会的、そして経済的な環境変化はその大きさを増し、また、そのスピードも速くなっている。その非営利組織を代表するものに、例えば行政組織や医療組織があるが、いずれの組織においても経営学的な視点からの対応や手法の導入が急がれる状況にあるのではないだろうか。

行政組織では、財政の悪化とともに、事業の優先順位付け、予算の効果的配分、効率の運用が強く求められている。このため、とくに、重要な課題に集中して取り組む方針や戦略が必要になっている。また、医療組織では、我が国における高齢化の進展や医療の高度

化による医療財政の圧迫、そのための医療費抑制の流れの中でコストマネジメントの必要性が強く叫ばれるようになってきている。その施策の中に、大学から附属病院を切り離し、別法人化することを認める規制緩和を検討していることがある。その第1号として、岡山大学病院の事例（予定）がある。具体的には、岡山市内の6医療機関を統合し、持ち株会社型の新医療法人（地域医療連携推進法人）を全国で初めて発足させる方針である（2017年度に開設予定）。今日、社会の大きな転換期にあつて、非営利組織は、仕事のやり方や成果というパフォーマンスを変革し、組織文化を含めたマネジメントの変革に積極的に取り組むことが期待されている。

他方で、営利組織の研究・実践において関心が注がれていることに、社会的起業がある。より良い社会を構築するために、新しい仕組みを生み出し、変化を引き起こす、そうしたアイデア創出と実践はソーシャル・イノベーションとも呼ばれている。多様にある社会的課題の解決には、市民、企業、NPO、政府、国際的諸機関などの立場を超えた新しい枠組みが必要とされつつあるが、これをビジネス化して取り組んでいるのが社会起業家である。例えば、公共交通機関であるタクシーの配車アプリサービス（Uber）を手掛けるウーバー・テクノロジーズ社がある。これは、2009年3月に設立され、創業からわずか5年で、58国・地域の300都市（2015年5月時点）に展開し急成長を遂げているベンチャー企業である。主にタクシー業者を対象とした自動車配車ウェブサイト、および配車アプリの運営が主事業である。その成長の背景には、提供者が所有するモノやサービスについて、利用者が共有することにより成立するシェアリングエコノミーから派生したライドシェアの仕組みがある。このように、従来経営学で議論してきた営利組織における起業の考え方が、ソーシャルビジネスにおいて、その公共性と効率性にも影響を及ぼし、拡大・普及するようになってきており、それに関わるマネジメントも重要になってきている。

上述のように、従来、議論がなかったわけではないが、非営利組織には、それにおける公共性の再度の見直し、そして改めて効率性が求められる時代である。その一方で、営利組織には、公共性や社会性がさらに強く求められる時代である。今日、こうした時代の流れの中で、新たなマネジメントの在り方が問い直されているといえよう。本大会においては、公共性と効率性のマネジメントというキーワードに基づいて、3つのサブテーマを以下に設定する。そして、非営利組織、営利組織における経営学の新たな意義や役割について議論し、相互の理解を深める機会にしたい。

## ①医療組織のマネジメント

非営利組織の中でも医療組織に焦点を当てる。とくに医療行為は、今日、安全性やその質の高度化が要求され、重視される専門職中心の組織である。効率性概念を基本枠組みとしてはマネジメントしにくい面も多いが、経営環境の諸事情の変化から効率化追求が必然

的な状況下にある。どのような枠組みや方法があるのか、医療組織の特性を踏まえて議論を行いたい。

## ②ソーシャルビジネスのマネジメント

営利組織における新たなモデルであるソーシャルビジネスのマネジメントに関心が注がれている。社会という大きな枠組みの中で、従来にない公共性を強く意識した新しいビジネスの着想や実践はどのようにして生まれるのだろうか。また、ここにおける効率化の条件とは何なのかについて議論を行いたい。

## ③公共性と効率性のマネジメントからみた CSR

今日、企業がその活動上、日常的に考慮し続けなければならないものに、CSRがある。これは、社会の一存在としての責任を再度自覚するためにも、また営利活動の行き過ぎによる弊害を防止するためにも、その重要性は指摘されてきている。しかし、その一方で、不祥事として根絶できない現実も散見されるのである。公共性と効率性のマネジメントという観点から、改めて CSR 議論を行いたい。